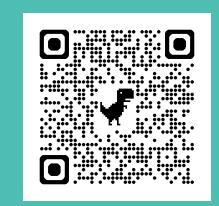


園と卒園児家庭が関わりを持ち続けることの意義と可能性

一集団共同型子育で再生プロジェクト (1) 職員インタビューから一

柳瀬瑞穂1 - 石山幸恵1 - 廣戸健悟2 - 山口舞2 (1フレーベル館・2東京大学大学院教育学研究科)



プロジェクトHP

問題と目的

現代日本において、ヒト本来の子育ての形である 「集団共同型子育て」が失われつつある

集団共同型子育で



かつては親以外のたくさんの人にも育ちを支えられてきた

そのような状況下で園が核となる集団共同型子育ての在り方とは何か?

今回は ここに着目

年上の子どもと関われる機会の一つとして 卒園児の小学生ボランティアを実施

目的

小学生ボランティアの実施が、子ども・職員・ 保護者にもたらす影響を調査し、園と卒園児家庭が 関わりを持ち続けることの意義を明らかにする

小学生ボランティア当日の流れ

9:00

9:30

オリエンテーション(初回のみ) 給食室や職員室等に挨拶する



12:30 片付けや掃除手伝い

午睡の手伝い

おもちゃの消毒等

お問い合わせ先: kokoken@froebel-kan.co.jp

それぞれのクラスに入り挨拶する 14:30 振り返り



11:30 1.2年生 振り返り後、帰宅 3年生以上 お昼ごはん

15:00 おやつ 15:30 帰宅

方法

調査対象園:フレーベル西が丘みらい園

調査期間:2024年9月 右記の3つの調査を実施した ①**職員インタビュー**(園職員4名)

小学生ボランティアの実施に対して、在園児・卒園児・職員・保護者について気づいたことや感じたこと等

②**職員アンケート**(園職員15名)

なった

小学生ボランティアの実施が在園児に与えた影響、小学生ボランティアについて感じたこと等

③保護者アンケート (小学生ボランティアに参加した卒園児の保護者16名) 小学生ボランティア参加後子どもが家庭で話していたこと、参加後の変化等

結果と考察

園と卒園児家庭双方にとってポジティブな影響があり、意義があることが分かった

職員

- 1.自分たちの保育に対する自信が増す
- 2.従業員エンゲージメントの向上
- 3.業務負担感の減少
- 4.異年齢の関わりの良さを再認識

自分たちの保育が、幼児期以降の成長を支える土台を作っ ていることを、子どもの成長した姿を見て実感

乳児担任 実際私たちもこれでいいんだと思って保育をし ているけれど、やっぱりなかなかそれがすごく見えてくる のってすっごい先のことだから。それは自信を持って言え るけど,<u>どうこの子たちの力になっているんだろう</u>ってい うのは気にはなっていた。(中略)ボランティアに来た子 が、相手の気持ちを受け止めて、「でもこうだったよ?」 とか「でももっとやってほしいのね。じゃあいいよ」とか、 そういうのができる姿を見て。もちろん彼女のベースもあ るんでしょうけど。<u>こうやって人に寄り添いながら,対応</u> ができるような子にちゃんとなってるんだなって。

育てられる側から育てる側へと変化するなど、保育士が 予想していなかった姿も見られた

保育園で働くことの魅力や働きがいを実感する機会に

幼児担当 保育をする中で悩んだことが, <u>卒園して</u>

戻ってきて笑顔を見ると、単純によかったんだなって

思えるのは、経験年数が10年以上ある自分も感じるし、

小学生の存在が、大人に安心やうれしい気持ちを与え

美」というのはほんとにそうで、働いていてよかった

幼児担任 午睡のねかしつけなどに加わってくれたこ

とで、いつもより午睡がおちついた日もあり、助けら

てくれた。誰かが言っていた「先生達にとってご褒

様々な場面で卒園児が保育士の役割を担うことで、

若い先生達もそういうのを感じたのでは。

という気持ちにさせられた。

保育士の業務負担感も減った

れました。

幼児担任 午睡時, 卒園児にトントンしてもらったのが 嬉しかったようで、けやき組(5歳児)も真似するよう に,かしのき(4歳児)さくら(3歳児)をトントンする ようになった。

卒園児保護者(家庭)

- 1.子どもの成長や良さを感じられる
- 2.子どもが異年齢の関わりを経験できる
- 3.子どもの居場所ができる

ボランティアに参加したことで見えてきた、小学校では見られない 子どもの育ちがある

幼児担当 お母さんお父さんにも印象に残っていた姿は伝えた。 感動したって。反応は、思わず笑みがこぼれる「ほんとですか? ほんとですか?|表情が和らいでいる。子どもの成長を保護者と 一緒に感動・共感できるすばらしさ。さらにぐっと信頼関係が 深まったような気がした。

年下の子どもと触れ合う機会は貴重でよい経験となる

小学2年生保護者 兄弟がいないので、<u>年下のお友だちと触れ</u> 合う機会があり、本人にとってよい機会だったと感じた。

卒園児にとっての安全基地のような役割を担うことができる可能性

小学1年生保護者 第2の家庭のように、帰る場所、帰りたい場 <u>所のような、心の拠り所があるのは素敵なこと</u>だと思いました。 この先大きくなっても、ずっと大事な場所であり続けると思いま